

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

日本口腔外科学会雑誌 (1987.08) 33巻8号:1510~1513.

周辺性エナメル上皮腫の1症例

松田光悦、竹川正範、吉田裕一、大坪誠治、井形伸弘、末次博史、西村泰一、北 進一

周辺性エナメル上皮腫の1症例

松田光悦・竹川正範・吉田裕一・大坪誠治
井形伸弘・末次博史・西村泰一・北進一

Peripheral ameloblastoma: Report of a case

Mitsuyoshi MATSUDA • Masanori TAKEKAWA • Yuichi YOSHIDA
Seiji OTSUBO • Nobuhiro IGATA • Hiroshi SUETSUGU
Tai-ichi NISHIMURA • Shin-ichi KITA

Abstract: We experienced a case of peripheral ameloblastoma that developed in the right palatal gingiva adjacent to the first premolar tooth in a 30-year old man.

This tumor is a very rare one that develops only in the soft tissues of the tooth bearing areas.

It is necessary for the diagnosis to have a detailed histological examination.

In this case the excised bone was examined by serial sections. "Peripheral ameloblastoma" in histopathological diagnosis was confirmed, and we reported this case together with the literature.

Key words: peripheral ameloblastoma, ameloblastoma

緒 言

エナメル上皮腫は通常顎骨内に発生するが、顎骨外にも発生することが報告されている^{1~26)}。このようなものは周辺性エナメル上皮腫、または骨外性エナメル上皮腫と呼ばれ、非常にまれなものである。今回われわれは、4 部口蓋側歯肉に発生した周辺性エナメル上皮腫の1例を経験したので報告する。

症 例

患 者：30歳 男性。
初 診：昭和58年1月
主 訴：4 部口蓋側歯肉の腫瘤形成。
既往歴：特記すべき事項はない。
家族歴：特記すべき事項はない。

旭川医科大学歯科口腔外科学講座
(主任：北進一教授)
Department of Oral and Maxillofacial Surgery,
Asahikawa Medical College (Chief: Prof. Shin-ichi Kita)

受付日：昭和62年2月16日

現病歴：約2年前より4 部口蓋側歯肉の腫瘤に気づいたが、他に自覚症状がないため放置していた。昭和58年1月、歯科治療のため某歯科医院を受診したところ、腫瘤部の精査を勧められ、当科を紹介されて受診した。

現 症：全身所見では体格、栄養状態はともに良好であり異常は認められなかった。また顔貌所見にも異常は認めなかった(写真1)。口腔内所見では、4 部口蓋側歯肉に小指頭大、弾性硬の広基性腫瘤を認め、その表面は乳頭状を呈していた。圧痛などの自覚症状は認めなかった(写真2)。

X線写真所見：4 部遠心の歯槽骨にわずかな吸収像を認めた以外に異常所見は認めなかった(写真3)。

臨床検査所見：血液一般、血清生化学的検査に異常所見は認めなかった

臨床診断：エプーリスの疑い。

処置および経過：上記診断下に、局所麻酔下で、周囲歯肉および骨膜を含め一塊として腫瘤の摘出を行った。摘出物の病理組織学的検査の結果、エナメル上皮腫の診断を得た。このため腫瘍部を中心とした右側上顎歯槽骨の辺縁切除術を施行した。術後経過は良好で、4年後の現在も臨床的所見、X線写真所見ともに異常は認めない。

病理組織学的所見：初回摘出時の所見；口腔粘膜上皮

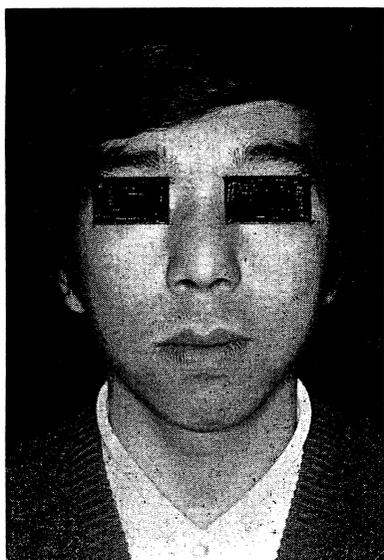
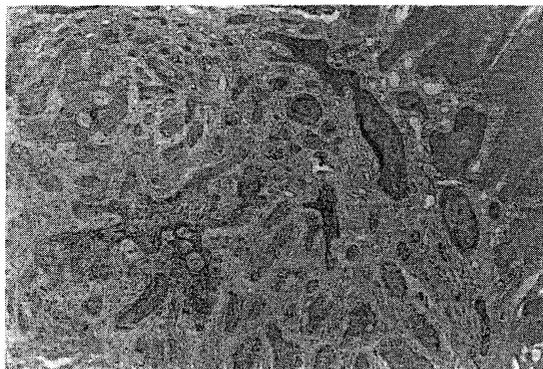


写真1 初診時の顔貌

写真3 初診時のX線写真所見
(吸収部：矢印)

写真2 初診時の口腔内所見

写真4 1回目摘出物の病理組織学的所見
(H-E 染色, 弱拡大)

直下の線維性結合組織中に歯堤に似た上皮索の増殖を認め、さらにエナメル器に類似した部分も認めた。この部分の実質は間質に接して円柱状の細胞が配列して胞巣を形成し、その内側は扁平上皮の特徴を呈していた。これらの所見から宮崎・荒井の分類によるⅡ型のエナメル上皮腫と診断した(写真4, 5)。

2回目摘出時の所見：腫瘍部を中心とした上顎骨辺縁切除術を施行し、摘出物の連続切片による病理組織学的検索を行った。この結果、骨および周囲組織への腫瘍の浸潤は認めなかった(写真6)。

病理組織学的診断：エナメル上皮腫。

確定診断：周辺性エナメル上皮腫。

考 察

周辺性エナメル上皮腫は、その発生部位の特徴からきわめてまれなものであり、内外あわせてもその報告例は非常に少ないようである¹⁻²⁶⁾。本腫瘍は骨外性エナメル上皮腫とも呼ばれ^{3,4,17)}、歯の発生部位上の軟組織に発生したエナメル上皮腫である¹⁻⁵⁾。しかもこの腫瘍は直下の骨とは骨膜をもって明確に境いされており、骨皮質には腫瘍病変が認められないことと定義されている⁶⁾。他にも頬粘膜、口唇、頭蓋咽頭管などに類似した腫瘍の発生することがあるが⁷⁾、エナメル上皮腫の発生由来からみて、これらはエナメル上皮腫とはみなし難いといわれている⁵⁾。本症の臨床像を既報告例からみると、ほと

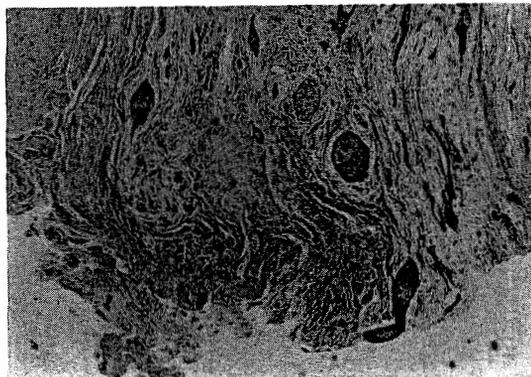


写真 5 1回目摘出物の病理組織学的所見
(H-E 染色, 弱拡大)



写真 6 2回目摘出術の病理組織学的所見
(H-E 染色, 弱拡大)

んどが初診時にエプーリス, 乳頭腫, あるいは線維腫などと診断され, 疼痛などの自覚症状もないようである^{4,6,8-12}。われわれの症例でも小指頭大, 弾性硬, 広基性で表面は乳頭状を呈し, 色はほぼ正常歯肉粘膜色であった。またX線写真上, 腫瘍部直下の歯槽骨にわずかな吸収像を認めたが, 口腔内全域にわたり歯周組織病変が進行しており, 腫瘍との関連を断定することは困難であった。これらよりエプーリスの疑いと診断した。発症年齢, および性別に関しては, 通常の顎骨内エナメル上皮腫が20歳から30歳代に多いのに比べて, 本症では平均して40歳代後半から50歳代の比較的高齢者に多く, また男性に多く見られている^{8,9,12,13,16,22}。このことは, 腫瘍が歯肉粘膜に限局しており, 従来のエナメル上皮腫のように顎骨に症状の現れることがきわめて少なく, また自覚症状もほとんどないため放置されている場合が多いことが示唆される。われわれの症例は30歳の男性であり, 他家の報告と比較すると若干若いようである。好発部位は小白歯部の舌側あるいは口蓋側歯肉とされているが^{8,9,13,23}, 上顎前歯部歯肉¹³, あるいは上顎結節部に

見られたという報告例もある^{4,14,15}。組織学的には通常のエナメル上皮腫と同様の像を示すが, 顎骨内のものには宮崎・荒井の分類でⅡ型が多いのに比べ, 本症ではⅠ型からⅡ型の組織像を示したという報告が多く見られている^{6,8,9,11,16,25}。本症の発生由来については諸説あり, 大きく分けると, (1) 歯肉粘膜下に存在した歯原性上皮残遺に由来するというもの², (2) 口腔粘膜上皮から直接発生するというもの^{11,17}に分けられるが, いまだ明らかではない。われわれの症例ではⅡ型のエナメル上皮腫の像を呈し, 一部粘膜上皮と連続している像を認めたが, このことから本腫瘍が基底細胞と関連して発生したか否かを断定することはできず, その発生に関しては不明である。また初回摘出物の病理組織学的検査において, 切除断端にまで腫瘍組織がみられたことから, 腫瘍部を中心とした歯槽骨の辺縁切除術を施行した。さらに腫瘍の顎骨内への浸潤の有無を確認するため, 摘出物の連続切片による病理組織学的検査を行った。この結果, 骨および周囲組織への腫瘍の浸潤は認めず, これらのことから周辺性エナメル上皮腫と診断した。本症の確定診断に関してはその臨床像, X線像に加えて周囲骨組織への腫瘍浸潤の状態を組織学的に検索することが必要と考えられた。

結 語

今回われわれは, 4] 部口蓋側歯肉に発生した周辺性エナメル上皮腫の1症例を経験したので若干の考察を加えて報告した。

本論文の要旨は昭和58年9月30日第28回日本口腔外科学会総会(於, 東京)において報告した。

引用文献

- 1) 浅田光一, 石橋克礼, 他: 周辺性(骨外性)エナメル上皮腫の1例. 日口外誌 22: 832-836 1976.
- 2) Stanley, H.R., Krogh, H.W., et al.: Peripheral Ameloblastoma. Oral Surg 12: 760 1959.
- 3) Pollack, R.S.: Extraosseous Ameloblastoma. Arch Surg 13: 353-358 1955.
- 4) Wallen, N.G.: Extraosseous Ameloblastoma. Oral Surg 34: 95-97 1972.
- 5) 石川梧朗, 秋吉正豊, 他: 口腔病理学Ⅱ. 改訂版, 永末書店, 京都, 1982, p 462-481.
- 6) 手島貞一, 田中広一, 他: Peripheral ameloblastoma の1例. 日口外誌 2: 391-396 1977.
- 7) Lucas, R.B.: Pathology of tumors of the oral tissues. 2 ed, Churchill Livingstone, Edinburgh, 1964, p 45.
- 8) 高井克憲, 山田長信, 他: 周辺性エナメル上皮

- 腫の1症例. 日口外誌 28: 295-298 1982.
- 9) 木下鞆彦, 王 朝駿, 他: 辺縁性エナメル上皮腫の1例. 日口外誌 28: 505-510 1982.
 - 10) Balfour, R.S. and Loscalzo, L.J.: Multicentric peripheral ameloblastoma. *J Oral Surg* 31: 535-538 1973.
 - 11) Lee, K.W. and Path, M.C.: Peripheral ameloblastoma. *Brit J Oral Surg* 8: 150-153 1970.
 - 12) Patrikiou, A., Papanicolaou, S., et al.: Peripheral ameloblastoma. *Int J Oral Surg* 12: 51-55 1983.
 - 13) 小森康雄, 松本正明, 他: Peripheral ameloblastoma の1症例. 日口外誌 25: 1204-1207 1979.
 - 14) Russel, A.: Ameloblastoma of the mucosal origin. *NZ dent J* 62: 116-118 1966.
 - 15) Mori, M., Kuroi, M., et al.: Histochemical observation of soft tissue ameloblastoma. *J Osaka Univ Dent Sch* 12: 109-116 1972.
 - 16) 飯田 修, 小野富昭, 他: 歯槽部に限局してみられたエナメル上皮腫の2例. 日口外誌 29: 1600-1605 1983.
 - 17) Braunstein, E.: Case report of an extraosseous adamantinoblastoma. *Oral Surg* 2: 760-765 1949.
 - 18) 右田信行, 永井晴彦: Peripheral ameloblastoma の1例. 日口外誌 21: 463-466 1975.
 - 19) 井出文雄, 渡辺孝夫, 他: Peripheral ameloblastoma の1症例. 口科誌 27: 353-362 1978.
 - 20) 宮本博一, 元井敏恵, 他: 上顎前歯部に発生した Peripheral ameloblastoma の1例(抄). 日口外誌 26: 1685 1980.
 - 21) 浅田洗一, 村越 恵, 他: エプーリスを思わせるエナメル上皮腫の1例(抄). 日口外誌 26: 1685 1980.
 - 22) Wesley, R.K., Borninski, E.R., et al.: Peripheral ameloblastoma. *J Oral Surg* 35: 670-672 1977.
 - 23) Wertheimer, F.W. and Stroud, D.E.: Peripheral ameloblastoma in a papilloma with recurrence: report of case. *J Oral Surg* 30: 47-49 1972.
 - 24) Guralnick, W. and Chuong, R.: Peripheral ameloblastoma of the gingiva. *J Oral Maxillofac Surg* 41: 536-539 1983.
 - 25) Shiba, R., Sakoda, S., et al.: Peripheral ameloblastoma. *J Oral Maxillofac Surg* 41: 460-463 1983.
 - 26) 山下敏康, 榎本道彦, 他: 周辺性エナメル上皮腫の2症例. 日口外誌 33: 76-82 1987.